

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 19

2009年1月発行

昨年はお世話になりありがとうございました。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年がみなさんにとって幸多き年となりますように！

レクリエーションイベント

みんなで楽しくクッキング & おかいもの

2008年11月23日(日)11:00~15:00

会場：大阪市立旭区民センター 調理室

大阪府福祉基金地域福祉振興助成金事業

参加者 37名

子ども：12名(うち障害児9名)、

ボランティア：25名(大学生21名、専門学校生1名、
中学生1名、社会人2名)

スタッフ：5名(ほうぽ4名、社会人ボラ1名)

子どもの体験を増やすことを目的とした余暇の場づくりとして、今年度2回目のクッキングのイベントを開催しました。今回は、大阪工業大学ボランティア教育研究会の7名の学生さんが企画・運営をしてくださいました。大阪工業大学の男子学生さんばかりの話合いで、スポーツなどの企画案が出てくるかと思ったのですが、希望されたのは、料理！「自分達が普段あまりしていないから」という理由です。基本の料理を、そして、子ども達が選択ができるメニューをと、カレーライスとクリームシチューを作ることになりました。そして、煮込んでいる間にクッキーを作ることにしました。料理がうまくできない子どももクッキーの型抜きなら参加でき、お母さんへのお土産にすれば、きっと嬉しいという配慮です。あったかなイベントを企画してくださいました。次の企画会議には、当日活動に参加予定の女性達4名も加わってくださり、細かな部分まで計画できました。

当日の進行やグループリーダーも大阪工業大学の学生さん達がしてくださいました。当日参加のボランティア達も、料理が得意とはいえない学生さんが多く、危なっかしい手つきで料理する学生さんもいて、自宅でお手伝いをしている子どもの方が手際良かったり…。

参加してくれた子ども達は、料理の得意な子もいれば、食べる方専門の子もいて、それぞれに居心地の良い時間を過ごしたようです。みんな、たくさん食べました。お土産のクッキーも好評でした。企画から当日の活動まで、内心ヒヤヒヤして見守ってきたスタッフでしたが、終わってみれば、スタッフのほうが多くを教えられたように思います。

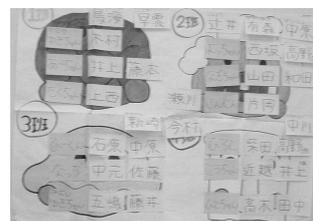


得意な分野だからボランティア活動をするということではなく、自分が苦手なことだから子どもと一緒にやってみたいというボランティア活動もあり。その大切さを感じました。上から指導されることの多い子ども達。余暇の場だからこそ、友達に近いお兄さんやお姉さんと一緒に、試行錯誤してチャレンジして欲しいと思います。「体験の幅を広げる」だけでなく、それを「誰とするのか」が、いかに大切かを改めて感じる時間となりました。専門職のスタッフにとっても気づきの場となりました。

何日も楽しみにして元気に参加してくれた子ども達、雨の中を企画会議に来てくださったボランティアの皆さん、大学でも話し合いや作業をしてくださった大阪工業大学のサークルの皆さん、そして、当日、体力勝負の活動をしてくださったボランティアの皆さん、ほんとうにありがとうございました。

<活動スケジュール>

- 9:30 ボランティア集合 自己紹介
グループ分け&打ち合わせ(ご飯を炊く)
スケジュールの確認 調理手順の紙芝居の確認
買い物リストの確認 子ども連絡票の確認
- 10:30 子ども受付開始
子ども クリームシチューとカレーライスを選択
保護者から今日の子どものようすを聞き取り
- 11:00 自己紹介、スケジュールの確認
グループ活動開始
グループ毎に買い物(買い物リストを見ながら)
作り方説明(紙芝居で)
調理(カレー or シチュー作り
クッキー作り)
- 食事
片付け、子ども報告票の記入
- 15:00 終了(保護者迎え)
保護者への報告 子ども解散
片付け
- 15:30 ボランティア振り返りティータイム
- 17:00 終了



＜ボランティアの感想から＞

- ・ 初めはすごく緊張もしてて、不安もいっぱいだったけど、担当のお子さんがすごく優しく接してくれたので、自分からも積極的に話したり、手をつないで一緒に買い物を楽しんだりすることができました。
- ・ 初めは「大半のことを子どもたちに任せる」ということを信用していなかったが、いざ、やってみると、子どもたちは自分で動いてくれた。子どもの可能性を垣間見た一日だった。自分も一緒になって楽しく過ごすことができた。
- ・ 最初、自己紹介の時点ではかなり不安でした。活動していく中で、グループの子どもたちのことがわかっていき、接しながらもどんなことに注意したら良いのか、どんなことが不足だったか経験することができました。
- ・ 年下や子どもたちと接する機会があまりないので、はじめ戸惑ったが、他の学生さん達の接し方を見て、学ばせてもらいました。いつもは同じ学校の学生とボランティアをしていて、他学生さんとは初めてで楽しかったです。
- ・ 皆、しっかり自分の担当する子どもたちを見ているなあと思いました。もっと自分も子どもを観察することを頑張らなければと教えられました。また、皆、子どもたちとすごくコミュニケーションが取れていたなあと感じて、短い時間だったけど、子どもたちにとっても、サポーターにとっても、楽しく過ごすことができたと思っています。
- ・ 自分以外のグループの意見を聴いて、接していない子どもの姿などを知ることができました。また、他の子どもとも接することができたらいいなあと思いました。
- ・ イベントの進行係は今回初めてしました。最後まで、グタグタな進め方でしたが、皆がテキパキと動いてくれたおかげで、予定より早く終わることができました。
- ・ みんなのそれぞれの感想を聞いて、障害あるないに関係なく、皆楽しんでいて、やれることは率先してやれていたようでよかったですと思いました。
- ・ 本当に楽しかったです。自分で料理することもないので、いい経験にもなりましたし、そして、何より自分に弟ができたみたいでした。何度も話しかけに来てくれたし、「何が好き？」とかいっぱいかけてくれたので、うれしかったです。また、他の人との交流もできたし、全体的にいい経験をしました。
- ・ 子どもの自主性を尊重しながら、子どものペースに合わせて接していくことが改めて



わかりました。色々な話を聞け、他大学の人と話ができたので良かったです。

- ・ 皆、個性をしっかり持っていて、それを発揮してくれる。引っ張ってってくれる子がたくさんいる。楽しみ方はそれぞれであることを忘れてはならない。

<スタッフ感想から>

学生さんたちが先々を考えて、本当によく自主的に動いていたと思います。また、子どもたちとのコミュニケーションもとれていたようです。子どもの目線で、子どものペースで無理なく進めていました。その姿勢に学ばされました。新鮮でした。

<保護者のメッセージから>

- ・ とても楽しみにしていたクッキング。初めてシチューを作るので、とても楽しみにしていました。家でも野菜を切ったりするのが大好きでよく手伝ってくれます。お姉さんに名前を呼んでもらえ、一緒に料理できてうれしかったと言っていました。これからも楽しい体験を積んで欲しいと思いました。
- ・ お姉さん達が大好きで、とっとうれしかったようです。めっちゃ笑顔でした。お友達に順番を変わったこと、娘にとってはすごい成長です。これもお姉さんがうまくサポートしてくださったからでしょう。一步一步、ほうぶのイベントの中で成長していることがわかります。
- ・ 参加を重ねるたびに、皆さんのおかげでだんだん慣れてきて少しずつ上手に参加できるようになっているようです。家でも色々体験させてやればよいのですが、時間的になかなかそうもいきません。でも、ボランティアさんやスタッフの皆さんやお友達と大勢ですること、何倍にも鮮明な体験となっていると思います。子どもの意思を尊重しながら、上手に参加させていただきありがとうございました。
- ・ 親と一緒に調理することもあります。今日のようにいい子ではなく、親が怒り子どもがふくれる等あります。他人の中での経験が子どもにプラスになっていると思ううれしいです。いつもは「ボクがする！ボクが！」の子ですが、今回は、周りの人に協調して自分の思いを押さえられたことが成長と感じました。充実した一日だったので、帰りの電車待ちの時に、「僕が作ったお菓子」とリュックから取り出してきて、二人で仲良く食べました。
- ・ 家では何もしない子で、買い物にも最近はついてきてくれません。お兄さんと一緒に張り切っていたのだと思います。障害児の兄弟の中で育ち、「自分を見てほしい」という思いや願いを持っていると思います。ちゃんと見つめてくださってありがとうございました。とても喜んで帰りました。
- ・ 外ではちょっと背伸びしているかもしれませんが、お姉さん達に誉められて、やる気も出るし、満足していたようでした。最近、誉めてやることが少ないので、学生さんから「よくできたね～」と言われて良かったと思います。

<スタッフ振り返り>

- いのちを世話することへの関心

大阪工業大学のボランティア教育研究会に所属する男子学生さんが中心になって、クッキング・イベントの企画が検討されました。パソコンやスポーツを利用したイベントであれば、男子学生さんの腕の見せ所かもしれませんが、料理となると不安感が大きか

ったと思われます。しかし、その自信に満ち溢れているとは異なる控え目な態度や、てきぱきと料理や洗い物をする女の子を感心して眺めている態度が、子どもに対して、のびのびと、自分のペースで、主体的に料理に取り組む場を提供してくれました。料理や食事をおして自らのいのちを育む力を培ううえで、料理経験の豊富な大人、親、教師などには創ることのできない貴重な環境です。

「毎日、料理をしてくれる母親のありがたさが分かった」という感想をリーダーの学生さんから聞くことができました。子どもとかかわりながらも、「自分はどうやって食事をとってきたのか」と、自分の生活や家族に思いを馳せることのできる感性を素敵に思います。生活を営む力を培う途上にある学生さんにとって、今回のクッキング・イベントの企画運営が、生活者としての自覚をもつ機会や、自他のいのちを世話することに関心をもつ機会として作用したように見受けられました。

ボランティアやスタッフが、子どもとともに育ち合うような場となりました。この場の感覚を記憶して、〈ほうふ〉の今後の活動に活かしたいと思います。

● Nちゃんは料理がきらい？それとも、好き？

Nちゃんのクッキング・イベントへの参加は、7月に続いて2回目となります。前回は調理室の外の廊下に座り込んで、学生ボランティアさんと一緒に過ごしていました。時折、調理室のなかに戻っては、椅子を並べてベッドに仕立てて、学生ボランティアさんに膝まくらをしてもらって寝転び、みんなが料理に取り組む様子を眺めていました。Nちゃんのグループの料理が出来上がると、誰よりも早くに椅子に座ってみんなを待ち構え、誰よりも美味しそうに食べていました。

あれから約3ヶ月後、学生さんとの企画会議の場でのことです。子どもたちのグループ分けをするときに、「料理そのものにあまり興味はないみたい」と、私はNちゃんのことを紹介しました。料理に関心のない子どもばかりが同じグループになると、子どもたちが中心になって料理を仕上げるができないため、メンバーの構成を考える際に必要な情報と思ったからです。

ところが、今回のNちゃんはそうではなかったのです。買い物から帰ってくると、自分からエプロンをつけ、三角巾を頭に巻いて、グループの調理台を片時も離れません。Nちゃんを担当した学生さんは次のように記録しています。

「カレー作りの時も、じゃがいもの皮をむいたり、玉ねぎを切ってくれたり、とても積極的に行動していました。クッキーの型抜きもちゃんとやってくれました。嫌がらずに何でもやってくれました。カレーもいっぱい食べていました。」

知っている場所に行く、知っている人がいる、何をするか分かっているということは、Nちゃんにとって安心できる環境だったに違いありません。そして、笑顔で迎えてくれる人がいた、興味を引き出してくれる人がいた、見守ってくれる人がいたということもまた、Nちゃんが料理に取り組むにあたって大切なことだったと思われます。

「料理に興味はないみたい」などと言って、Nちゃんの関心を勝手に決めつけてしまった自分が恥ずかしくなりました。そして、「知っている」「わかっている」という感覚があてにならず、子どもの思いをありのままに理解することの妨げになることを改めて認識しました。寝転んで料理を眺める前回の姿と、涙を流しながら玉ねぎを切る今回の

姿から察すると、Nちゃんが生きている世界は途方もなく広いものであって、その世界の全容はわかりようもありません。しかし、わからないから関わらない／わかるから関わるのではなく、「よくわからない」という感覚に促されて他者に関わり続けていくことは、人と人が違いをもちながらともに生きていくうえで土台となる力です。そのような力を自然体のうちに発揮する子どもや学生ボランティアさんの姿をととても眩しく感じた時間でした。



障害をもつ子どもの 保護者交流会 義務教育修了後の進路について

2008年11月23日(日)11:00~15:00

会場：大阪市立旭区民センター 集会室1

大阪府福祉基金地域福祉振興助成金事業

参加者 10名(障害児の保護者)

ボランティア：大学生3名(うち障害をもつ学生1名)

スタッフ：2名(ほうぷ1名、社会人ボラ1名)

ほうぷでは、設立当初から保護者交流会を開催し、保護者同士が情報や意見を交換する中で「元気になる場」の提供をしてきました。昨年度から、子どもの将来や自立について考えることをテーマに交流会を開催しています。今回は、「今の学校生活のことで精一杯」「将来のことなんて漠然として予想もつかない」、そう思っている保護者の方々と、すこし先の義務教育修了後のことから一緒に考えてみることにしました。

ほうぷには、たくさんの地域の小中学校に通う子ども達やその保護者が関わってくれています。それぞれにいろんな課題を抱えながらも、「義務教育」に守られて学校生活を送っています。でも、「中学校を卒業したら、その先は?」「たくさんの友達の中で育つのは、中学卒業で終わり?」、そんな保護者の方々の質問や不安に応えたいと思い、今回の企画をしました。

最初に、お2人の先輩保護者と、高校に通う男子生徒さんの体験談を聞きました。先輩保護者Sさんは、市立桜宮高校の自立支援コースができる前、調査研究校であった時に通学していた娘さんの学校生活のようすを話してくださいました(注釈：大阪府はH13～、大阪市はH14～、公立高校への知的障害児受け入れのための調査研究を行い、H18に知的障害生徒自立支援コースがスタートしました。現在、大阪府下11校一各校定員2～3名・H21～募集人員各校3名一に設置)。アルバムのたくさんの写真が楽しい高校生活を物語っていました。Sさんの「障害児ではなく1人の子としての関わりがあったから、高校3年間やっていけた」という言葉が心に残りました。また、一般の受検をされたTさんのお母さんからは、あちこちの高校の自立支援コースに見学に行って検討したが、最終的に工業高校の受検をしたというお話がありました。ご本人のTさんは、受検の時に緊張したことや合格して嬉しかったこと、高校生活のようすなどをお話してくださいました。ほうぷから、高校進学に関する情報提供も行いました。

その後、先輩保護者を交えてグループで意見交換をしました。学校生活で悩み、兄弟姉妹との関係についての意見交換や、高校の進路を決める際に何を考えればよいのかなどの質疑応答がありました。また、障害当事者の大学生がボランティア参加していただき、体験談を聞くこともできました。子どもの思いに耳を傾ける機会にもなりました。

保護者の方々の疑問や不安に十分に答えられた内容とはいえませんでした。終了後のアンケートでは、このテーマの保護者交流会や勉強会を継続して欲しいという意見が多くありました。障害のある子どもの学校選択に悩む保護者はたくさんいます。その「学校選択」の中で、義務教育修了後の進路選択という課題も大きいことが伺われます。今後も引き続き開催していければと思います。



<参加者の感想から>

- ・ いろいろな情報があつて、とても勉強になった。
- ・ 先輩のお母さんの話はとてもありがたかったです。
- ・ 具体的に高校入試の方法を聞いてよかったです。まだまだ先ですが、高校に進学させたいと思いました。前期で自立支援コース、ダメなら、後期で一般受検という方法もあるのですね。専門科(工業や商業)は前期になるのですね。選択肢はあるから、本人にベストなところを選びたいと思いました。
- ・ 先輩の話が聞いてよかった。当事者の学生さんのお話も聞いて本当に良かった。
- ・ 進路について考えているところなので、とても参考になりました。
- ・ これから先の進路に関して、参考になった部分もありますが、まず、入学することの難しさの方への思いもますます強く感じました。先輩のお母さんのお話で、どちらのお子さんも高校生活を楽しまれているようすを聞かせていただいて、そのように過ごす時間を持たせてやれるように、今、何をすればいいのか、もう一度考えて、日々のようすを見ていかなければいけないなと感じました。
- ・ 卒業後の進路のことを具体的に教えていただいて良かったです。個人的に聞いたかったことも質問できました。
- ・ 受検での経験談をまた聞きたいです。受検できることを知らない人もいると思う。
- ・ もう一度、この企画を来年度もして欲しいです。
- ・ 今回の内容を毎年やって欲しい(最新情報を得たい)。そのうち、自分の子どもの経験が話せるようになるのではないかと思います。



<ボランティアの感想から>

今までのボランティアでは、子ども達と遊ぶことばかりで、親の気持ちを聞く機会がなかったのですごく勉強になりました。障害児とか健常者とか関係なく、思春期や反抗期や将来について悩むことはあると思うので、本当に親は大変だなと思いました。今になってみると親のありがたみがわかります。この保護者交流会に参加してみて親が子どものことをこんなにも考えているということに改めて気が付きました。親がこのような場でお互いの悩みや心配事やストレスなどをぶつけることが本当に必要だと感じました。

<スタッフ振り返り>

今回、知的障害生徒自立支援コース設置前の調査研究段階で高校に行かれたSさんのお話を聴くことができました。自立支援コースの「制度」としての紹介にとどまらず、たくさん子ども達や保護者達の「思い」や「運動」によって自立支援コースができたのだということが伝わったのではないかと思います。今あるサービスや制度の利用をして愚痴を言っているだけでは何も変わらず、声を上げてはたらきかけていくことをしなければ、制度は変わっていかないことに改めて気づいていただけたかと思います。

そして、いろんなことを試行錯誤しながら子育てをしてくられた先輩保護者のお話から、専門職から得る知識に頼るのではなく、子どもと一緒にいろんな体験をしながら考えていくことが大切だと感じられたのではないかと思います。

学校での悩みについての意見交換がされていましたが、いろんな子どもがいて、いろんな保護者がいます。それぞれが一生懸命です。でも、「我が子だけが良い」という環境はありえません。皆が良くなるから、我が子も良くなるのだと思います。保護者も広い視野をもって、皆で力を合わせて、子ども達1人ひとり、皆が楽しく学校生活を送り、それぞれの進路を応援しあえるようにしたいものです。

また、障害当事者の大学生さんのお話から、受験校決定の際に、高校の「教師」からひどい差別の言葉を受けて、辛い思いをした子ども達がいることを、十五の春の悲しみを知っていただけたと思います。いかに高校に「障害児」が入っていないかということにも気づかされます。傷ついた子どもの思いを受けとめ、悲しみ怒り、障害の状態の違いを超えて、子ども自身の思いを考える機会になったのではないかと思います。

アンケートを見ると、今後もこのようなテーマで開催して欲しいという意見が複数ありました。義務教育後の進路、特に普通高校への進学についての情報がいかに行き届いていないかがわかりました。障害児が普通高校(自立支援コースも含め)に行くことをご存じない先生方も多いようです。保護者も進路先についての知識はあっても、実際にどのように準備をしていけばよいのかという情報は得ることができていないようです。また、先輩保護者や障害当事者の声を聴くことの大切さを改めて感じる交流会でした。今後、高校進学についての情報の提供をしていくとともに、先輩保護者や障害当事者の話を聞いたり、保護者同士で意見交換をしたりして、進路の決定の参考にしていただくような取り組みも大切だと感じさせられました。

まちづくり・ネットワークづくり あさひあったかまちづくり(旭区地域福祉計画)

大阪市内各区で取り組まれている地域福祉計画「アクションプラン」。旭区では「あさひあったかまちづくり計画」として作成され、旭区役所、旭区社会福祉協議会、地域住民などからなる「あさひあったかまちづくり計画をすすめよう会」によって、実践されています。

‘ほうぶ’も参加しています。計画の中に、「『あったかまちづくり基地』(地域の交流、相談、情報発信等の場となる拠点)を地域の中に増やしていこう」というものがあります。

そのモデル事業として、有名な千林商店街に続く、今市商店街に「あさひあったかまち」をオープンしました。千林商店街中ほど(くらしエール館あたり)から100m位、今市

商店街アーケード沿いです。誰でも立ち寄って休憩したり、子育て中の保護者がおむつ交換や授乳をしたり、子育てサークルが活動していたり、障害者の方々が作った製品などを販売していたり。活動資金の関係で、1ヵ月半という短い期間ですが、地域の集いの場、出会いの場、福祉に関する相談、子育て相談、栄養相談などの場、情報発信の場を開設します。お近くにおいでの際はぜひお立ち寄りください！

あさひあったかきち ～今市商店街に誕生～

期間: 1月16日(金)～2月28日(土) 午前10時～午後4時(定休日) 木曜

＜1月のスケジュール＞

日	月	火	水	金	土
				16 PM プレオープニングセレモニー 旭子育て支援C出張広場	17 PM オープニングセレモニー
18 パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船)	19 パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船) PM育児相談(平和の子保育園保育士)	20 AM福祉相談 PM育児相談(平和の子保育園保育士)	21 AM旭子育て支援C出張広場 PM折り紙しよう(みらいかん)	23 地域で共に生きる教育と生活をすすめる会 PMパン・ケーキ販売(あかずきんちゃん)	24 PMパン・ケーキ販売(あかずきんちゃん)
25 PMパン・ケーキ販売(あかずきんちゃん)	26 AM節分のお面作り(きしゃぼっぽ) パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船)	27 AM福祉相談 PM栄養相談(旭区役所栄養士)	28 AM子育て相談(旭区子育て支援室) PM旭子育て支援C出張広場 パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船)	30 缶バッチ作り(パルワーク) PMパン・ケーキ販売(あかずきんちゃん)	31 パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船)

＜2月のスケジュール＞

(1月末現在の予定)

日	月	火	水	金	土
1 パン・ケーキ販売(あかずきんちゃん) PMエコ教室	2 AM節分のお面作り(きしゃぼっぽ) パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船)	3 AM福祉相談 PM育児相談(平和の子保育園保育士) パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船)	4 クッキー販売・作品展(あゆみ工房)	6 缶バッチ作り(パルワーク) PM育児相談(平和の子保育園保育士) PMパン・ケーキ販売(あかずきんちゃん)	7 AM旭子育て支援C出張広場 PMパン・ケーキ販売(あかずきんちゃん)
8 PMパン・ケーキ販売(あかずきんちゃん)	9 AMフリーマーケット(きしゃぼっぽ) PM育児相談(平和の子保育園保育士)	10 AM福祉相談 PM育児相談(平和の子保育園保育士) PMさをり織・ピース製品等販売(あさひ希望の里)	11 パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船)	13 パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船)	14 AM将棋(谷川勝敏プロ) PMパン・ケーキ販売(あかずきんちゃん)
15 パン・ケーキ販売(あかずきんちゃん)	16 パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船) PM育児相談(平和の子保育園保育士)	17 AM福祉相談 PM育児相談(平和の子保育園保育士)	18 パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船) PM育児相談(平和の子保育園保育士)	20 AM栄養相談(旭区役所栄養士) PM子育て相談(旭区子育て支援室) PMパン・ケーキ販売(あかずきんちゃん)	21 パン・ケーキ販売(あかずきんちゃん) PM切り絵教室
22 医療的ケアにチャレンジ!(医療的ケアの必要な子どもの家族の会)こころ)パン・ケーキ販売(あかずきんちゃん)	23 AM介護相談・しおり作り(おひさま園) PMさをり織・ピース製品等販売(あさひ希望の里)	24 AM福祉相談 PM子育て相談(旭区子育て支援室)	25 AM旭子育て支援C出張広場 PM折り紙しよう(みらいかん)	27 パン・ドーナツ・クッキー販売(飛行船)	28 お楽しみに!

2008年(平成20年)8月12日(火曜日)

堂々とまちは娘の生きる力

夏休みになり、外出が大好きな娘(14)は、毎日のように電動車いすに乗って、電車やバスで出かけています。娘には四肢障害があります。小さな子どもに指さされ、一緒に



いるお母さんが慌てて止めることもありません。でも、「見ちゃダメ」とは言わないで。子どもはきつと「違つ」ことが不思議なだけなのです。社会にはいろんな人がいることを教えてほしいと思います。

地下鉄の中で、下校途中の小学生に取り囲まれることもしばしば。娘はそっぽを向いたり、見返したりしています。好きな視線を浴びることは、重度の知的障害があっても十分に感じとっています。それでも娘はまっへと出て行きます。じろじろと見られても堂々としている娘の姿は、誇らしいとさえ感じます。

近所では、いろんな人に声をかけられます。私より顔が広いようです。もうすぐ盆踊りの季節です。お祭り大好きな娘は、今年も近くの公園の盆踊りの輪の中に入っていくことでしょうか。そして、地域の方々は当たり前のように、その輪に娘を招き入れてくれることでしょうか。

自分自身を受け入れ、人との関係を作っていく、その力こそが、娘の「生きる力」なのだと感じています。

(ほうふ代表理事 向井裕子)

本番で失敗してもほめてあげよう



子どもたち私、当日の発表を楽しみの成長の様子にしてみました。ところが、を、保護者ら本番当日は服の袖をかんだに見てもらおう。まま、踊ることができません運動会や文化でした。

祭の季節がやってきました。「いいところを見せてほしい出すのは、重度の障害者もつ娘(14)が通っていた保育所の生活発表会のこと。友達と一緒に練習を繰り返いに頑張ったのです。たえ、本番で子どもがうまくなできなかった。その場から逃げ出したとしても、「よく頑張ったね」とほめてあげて下さい。

2008年(平成20年)9月30日(火曜日)

「子どもの自尊感情を育てましょう。何かできた時はたくさんほめてあげましょう」という意見を耳にすることがあります。その度、私には疑問がわいてきます。失敗した時は？ 頑張ってもできなかった時は？ できないことがたくさんある子どもは？

「あなたはそのままでかえのない子どもなのよ」と伝えたいのです。ありのままの自分が愛されていると感じることが、子ども自身の生きるエネルギーになっていくのだと思います。

(ほうふ代表理事 向井裕子)

「あなたが大切」子に伝えて



妊娠8か月の時、医師から「もたちにとっては特別なこと死産か、生まれても育たない」と宣告された娘は、この秋、15歳になりました。元気に校区の中学校に通い、大勢の友達とともに毎日を送っています。

娘との暮らしは、いろいろなハプニングに満ちています。楽しいことやつらいこと、ケーションは困難ですが、友達と支えあい育ちあつて、9年近くの学校生活を送ってきました。周りの子どもたちとのかかわりに「子どもってすごい」と感動することもしばしば。

2008年(平成20年)11月18日(火曜日)

「一人ひとりがかけがえのない「いのち」なのだ」と、あなたが大切に、周りの大人が伝えてほしいと思います。

生まれてきた娘を初めて腕に抱いた時、なんともいえないぬくもりが、私に「いのち」を感じさせてくれました。「あなたに生まれて生まれてきた子どもなのよ」と伝えたくて、「望」と名づけました。生まれてくる子どもすべてを「よく生まれてきたね」と迎える地域社会であってほしいと願っています。

(ほうふ代表理事 向井裕子)

子どもから始める「個人将来計画」

～障害をもつ子どもの自立に向けた支援～

ほうぷ会報 18号でお知らせしたように、障害児支援事業では、子ども一人ひとりの「自立に向けた支援」を行うために、「子どもから始める個人将来計画」の作成について取り組んでおり、今年度は、子どもを取り巻く環境のさまざまな課題を一つひとつ検討しながら、モデルケースの計画作りを進めています。「子どもから始める個人将来計画」検討委員を中心に、秋には、教育との連携についての学習会を2回開催しました。1月には、アメリカ研修に行ってきた検討委員から、カリフォルニア州における発達障害者の支援システムについての報告会を開催して「本人中心計画」の仕組みを学び意見交換をしました。2月下旬頃に今年度の振り返りをして「子どもから始める個人将来計画」を今後どのように展開していくかについて検討していく予定です。詳細は次号でご報告します。

冬休み中の女性スタッフ数名で鍋パーティをしました。スタッフで集まると、事業の打ち合わせになりそうですが、その日は、料理やワインの話、体重や健康(老化? トホホ)や、それぞれの仕事や子どもの話などをして、おいしいご飯を食べました。そんな無目的な集まりも良いものです。「大人」にとっても「無駄な時間」「自由な時間」が大切と感じたひと時。今年こそ、ゆとりある生活がしたいと思いつつ、新年から「あさひあったかきち」のコーディネートに追われ睡眠不足の日々です。

今年は、ほうぷ5周年! 事業内容の見直しをしたいと考えています。

